



九頭竜川古戦場



九頭竜川左岸土手の麓にある首塚（福井市郡町）

永正3年（1506）の6月下旬から7月中旬にかけて越前国内で本願寺門徒が蜂起し、これに呼応して7月17日加賀・能登・越中の門徒に旧越前国守護甲斐氏の牢人が加わって坂井郡に進入する。一向一揆軍は坂井郡の兵庫や長崎に陣取り、朝倉氏の本拠一乗谷に向け進攻し始める。対する朝倉貞景は叔父の朝倉教景宗滴を総大将として、本陣を朝倉街道の中ノ郷に置き、東の鳴鹿表に一族の景職と魚住帶刀、西の高木口に勝蓮華右京進、堀江景実、黒丸に山崎小次郎祖桂、中村五郎右衛門が布陣した。九頭竜川を越えられない一向一揆軍は、鳴鹿に藤島超勝寺と宇坂本向寺が率いる越前門徒と加賀河北郡門徒、中ノ郷に対し和田本覚寺が率いる越前門徒と加賀の河合藤左衛門、蕪木常専が率いる加賀石川郡門徒、高木に対し井波瑞泉寺、土山安養寺が率いる越中門徒と加賀能美・江沼郡門徒、甲斐氏牢人など、中角の渡しに加賀の河合藤八郎、山本円正入道が率いる加賀河北郡門徒と越前門徒などが布陣した。

8月5日早朝、中角の渡しから一向一揆軍が黒丸の陣を攻めたが、一揆軍は河合、山本の首を取られてしまう。



翌6日、当主貞景から渡河攻撃を伝える使者もあり、宗滴自ら精兵を率いて急流を渡り一揆軍を攻撃する。不意を突かれて総崩れとなつた一揆方の敗戦が各陣に伝わって混乱のなか逃亡が相次ぎ、すでに渡河していた一揆軍は九頭竜川に飛び込んで溺死者も多く出たという。30万の一揆軍のうち、加賀に逃げ延びることができた者は10万に満たなかつたと言われる。合戦後、朝倉氏は国内の一向宗禁教政策をとり、和田本覚寺、藤島超勝寺などを破却して国外追放とした。

古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ
北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）
 〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9
 TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943
 E-MAIL. contact@j-sampo.com
 ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>